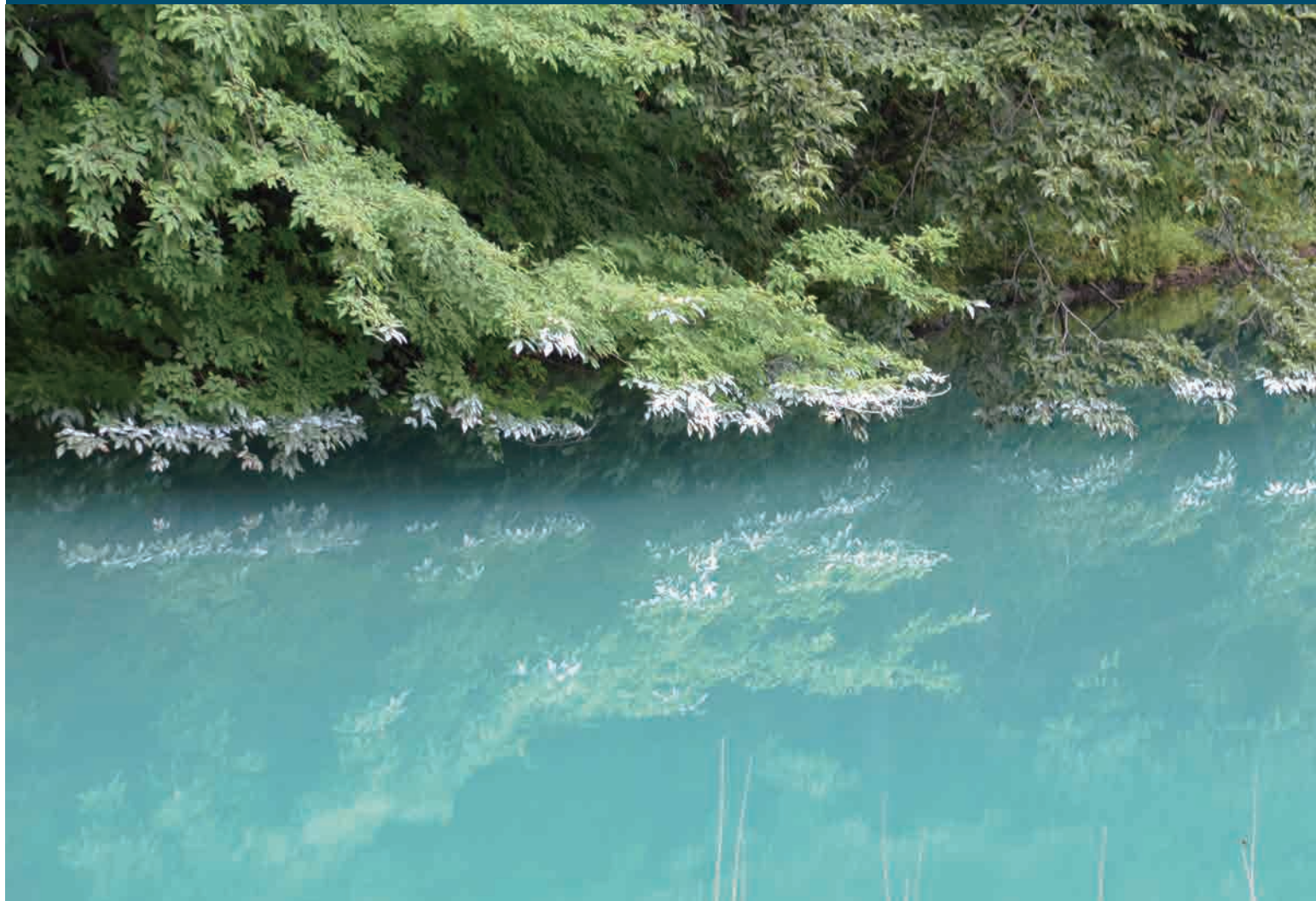




裏磐梯だより

No. 85

2017年7月



▲青沼のまわりの枝葉に付く白い物質

盛夏を迎え、五色沼の各沼では、沼と樹木の「青と緑」の競演が鮮やかさを増してきております。いろいろな自然の驚異と不思議さを与えてくれる五色沼ですが、この時期になると、さらに新たな驚きを与えてくれます。

それは、青沼の水面近くの木々の枝葉が白くなる現象です。この現象は、弁天沼、竜沼などの他の青色系の沼ではあまりみられません。なぜ青沼で特にみられるのかは、正直よくわかっていませんでした。しかし最近、大学の研究により、光の散乱で青沼などを青くみせている、水中に浮遊している微粒子（ケイ酸アルミニウムの結晶の一種で、以前アロフェンだろうといわれていたもの）が、枝が水に触れるたびに付着し、次第に白くなることがわかりました。青沼には、水面すれすれに多くの枝が張り出しているために、この現象が目立って見えるようです。他の沼の一部でも、同様の条件であれば、この現象がみられることもわかりました。多くの五色沼の秘密のうちの一つが解明されました。

夏らしい鮮やかな青と白のコントラストの青沼をはじめ、皆さんもぜひ五色沼散策で夏を感じてください。